

# 令和5年度 危機管理マニュアル (HP用)

山口県立岩国総合高等学校

〒740-0036

山口県岩国市藤生町4丁目41-1

TEL 0827-31-6155

※個人情報の保護及び保安上の理由のため割愛してある箇所があります。

# I 危機管理について

## 1 危機管理の基本方針

### (1) 危機管理の意義

教職員の危機管理意識を継続するとともに適切な危機管理体制を確立し、事件・事故、災害の未然防止に努め、万一発生した場合は被害を最小限に抑止する。

※「学校における防犯教室等実践事例集」平成18年3月文部科学省等

### (2) 危機管理の目的

- 1 生徒や教職員などの安全を確保し、施設などを守る。
- 2 危険をいち早く発見し、事件・事故、災害を未然に防止する。
- 3 事件・事故、災害が発生したときに、適切かつ迅速に対処し、被害を最小限に抑える。
- 4 事件・事故の再発防止と教育の再開に向けて対策を講じる。

### (3) 留意事項

#### ア 事前（日常）の対応

- ① 安全点検や安全指導を十分に行う  
施設・設備、授業、部活動、特別活動、登下校など
- ② 緊急時の対応方法を常に心得る  
緊急体制、医療体制、応急処置に基本、緊急時の役割分担等の確認など

#### イ 発生時（緊急時）の対応

- ① 状況を正確に把握し、速やかに対応する

**巧遅より拙速を優先**

- ② 情報を速やかに連絡し、正確に報告・記録する  
「5W1H」（報告の優先順位）

**なにが、だれが、いつ、どこで、なぜ、どのように**

- ③ 事故現場の保存に努める

#### ウ 事後の対応

- ① 再発防止の手段を講じる
- ② 心のケアを含め、事後指導の徹底をはかる
- ③ 保護者、地域、マスコミ等に誠意ある対応をする

## II 緊急体制

### 1 緊急体制

### 2 緊急時の職員役割分担

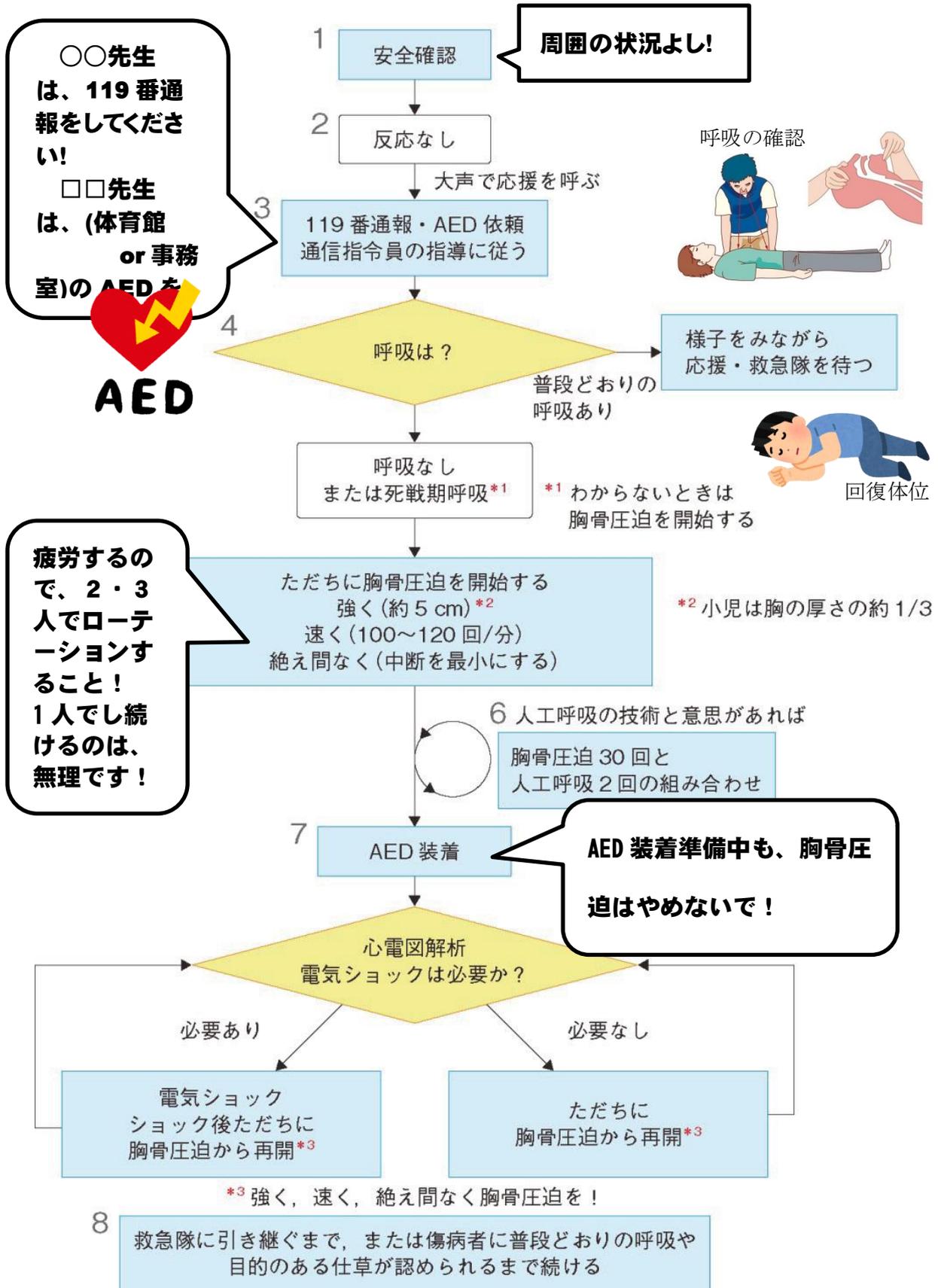
### Ⅲ 医療体制

1 緊急連絡体制

2 一次救命処置 次ページに掲載

3 災害給付制度（スポーツ振興センター）

## 2 一次救命処置

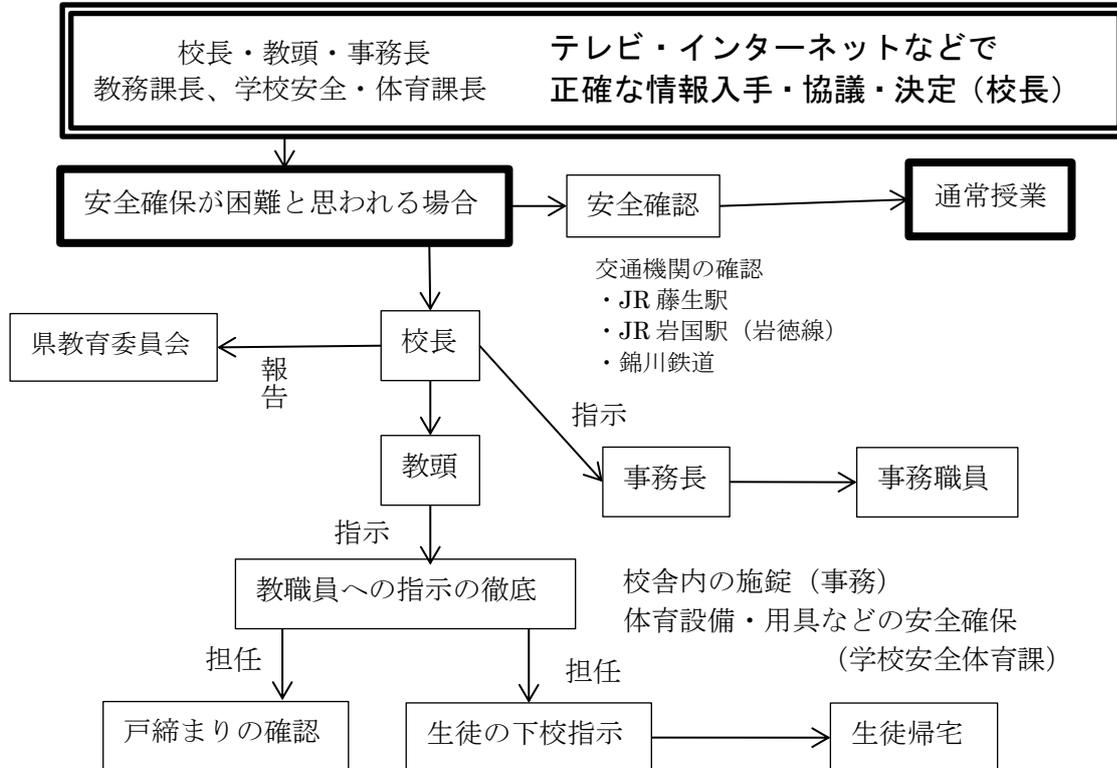


引用 JRC 蘇生ガイドライン 2015. 2016.2.22

## IV 災害安全

### 1 台風などによる注意報・警報発令時の対応

#### (1) 対応のフロー

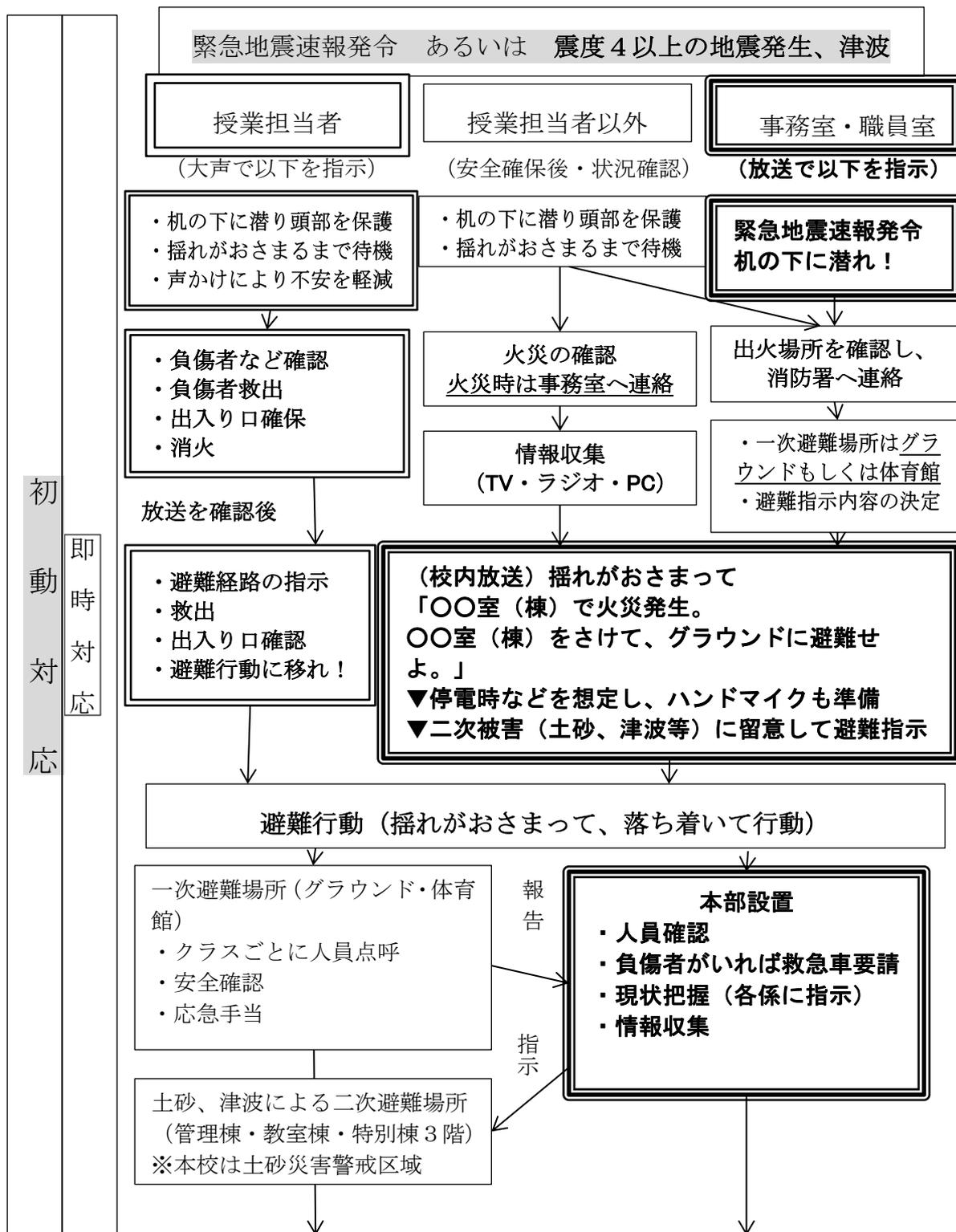


※ 下校が不可能な場合の避難場所は、原則として体育館とする。 状況に応じて帰宅確認(担任)

#### (2) 対応の基準

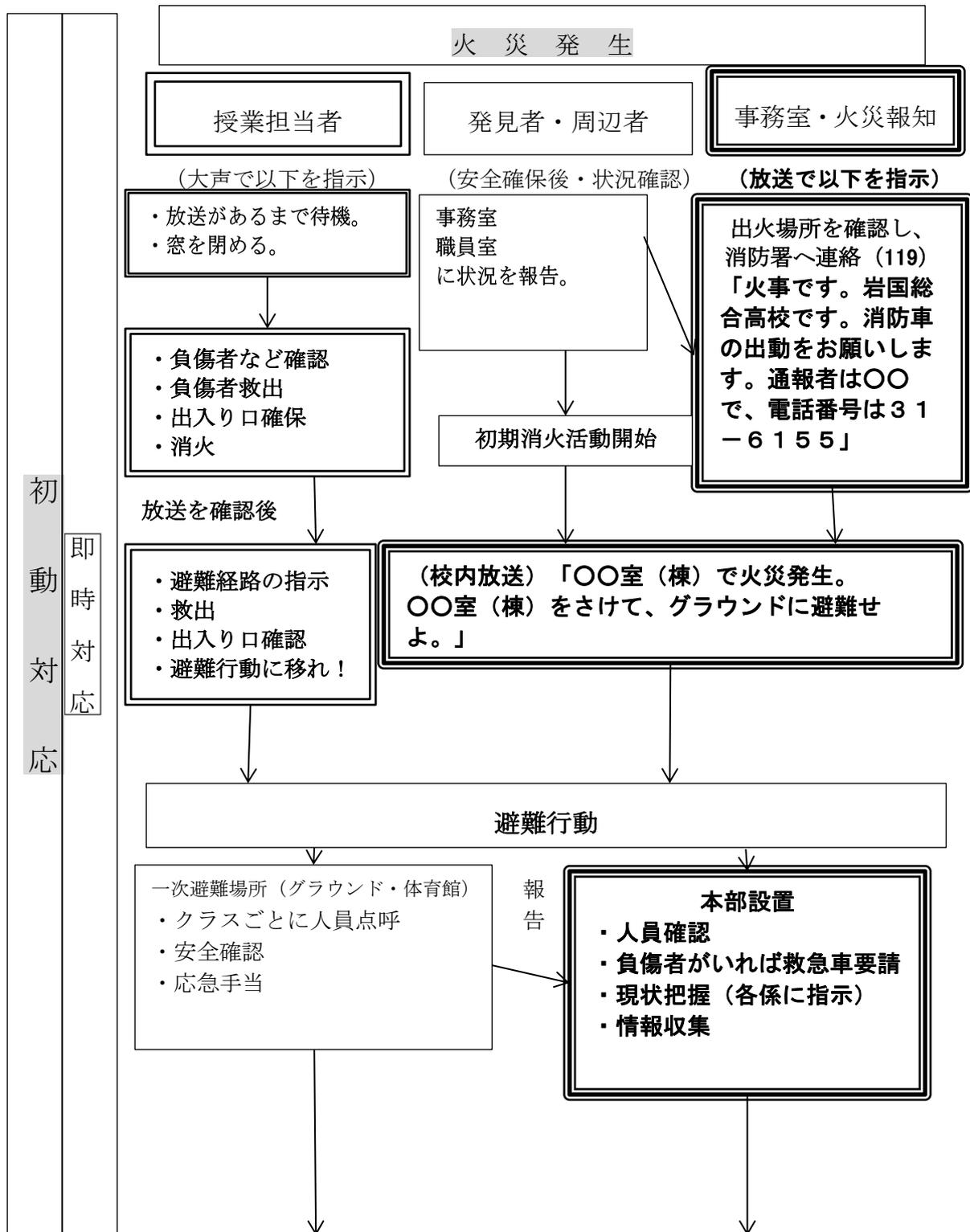
情報	登校前発令	登校後発令
<b>注意報</b> 強風 大雨 洪水 土砂	①生徒は今後の気象情報や地域の実情などを家族と相談し、安全に登下校できることを確認したうえで登校する。②生徒は、安全に登下校することが心配される場合は、学校に連絡し、自宅で待機するか状況を見て登校する。	①気象情報や地域の実情に応じ、下校させることもある。
<b>警報</b> 暴風 大雨 洪水 土砂	今後の気象情報や地域の実情などを家族と相談し、安全に登下校できることを確認したうえで登校する。安全に登下校することが心配される場合は学校に連絡し、自宅で待機するか状況を見て登校する。市長防災局から避難指示があった場合は避難所に避難する。	①状況により、安全を確認した後、下校させることもある。 <b>【確認事項】</b> ・交通、道路情報の確認 ・安全に下校することが困難な生徒については、保護者と連絡を取り、適切な対処をする。
備考	「岩国総合高校緊急連絡メール」を通じて保護者等へも周知する。	

## 2 地震発生時の対応



※これ以降の対応は、「防災に係る応急対応計画」のp9～を参照すること。

### 3 火災発生時の対応



※これ以降の対応は、「防災に係る応急対応計画」を参照すること。※

## V 生活安全

### 1 不審者への対応

#### (1) 不審者侵入の防止の3段階のチェック体制

- A 校門
- B 校門から校舎への入り口まで
- C 校舎への入り口

#### (2) 不審者への対応

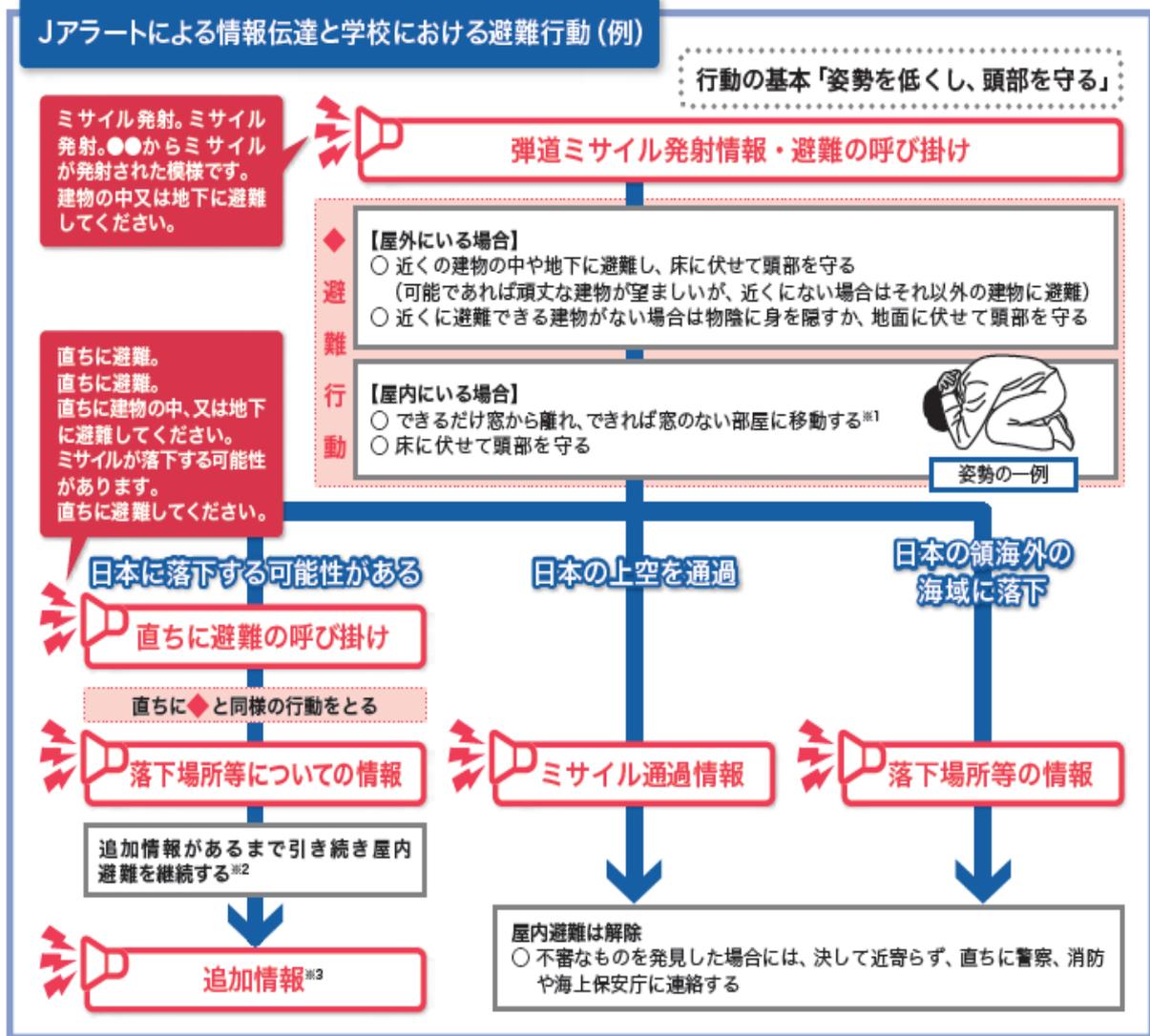
#### (3) 保護者の車による生徒の送迎について

生徒にけが等特別な事由がある場合にのみ、生徒昇降口までの送迎を認めることとする。担任は、職員朝礼などでその旨を全職員と共有する。

## VI 新たな危機事象への対応

### 1 弾道ミサイル発射に係る対応について

(1) Jアラートを通じて緊急情報が発信された際の対応



※1 「弾道ミサイル発射情報・避難の呼び掛け」の時点で、すぐに避難できるところに頑丈な建物や地下があれば、直ちにそちらに避難してください。ただし、校舎の状況や児童生徒等の避難経路など各学校の実情を十分に踏まえて、例えばその場に留まることも考慮に入れるなど、安全な避難行動がとれるようあらかじめ検討してください。

※2 「ミサイルが○地方に落下した可能性がある」等の情報があつた場合は、追加情報の伝達があるまで屋内避難を継続し、テレビ、ラジオ、インターネット等を通じて情報収集します。また、行政からの指示があればそれに従って落ち着いて行動します。もし、近くにミサイルが着弾した場合は、弾頭の種類に応じて被害の及ぶ範囲等が異なりますが、次のよう行動します。

- 屋外にいる場合は、口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。
- 屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

※3 その後の状況に応じて、屋内避難を解除するような情報、又は引き続き屋内避難をするあるいは別の地域へ避難するといった情報が伝えられます。

## Ⅶ 熱中症への対応

### 暑さ指数(WBGT)を用いた活動判断

暑さ指数 (WBGT) (℃)	(参考) 気温 (℃)	注意すべき 生活活動の 目安	日常生活に おける注意 事項	熱中症予防運動指針 <sup>(注1)</sup>	本校の対応
31以上	35以上	すべての生活活動で起こる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	<b>運動は原則中止</b> 特別の場合以外お運動を中止する。特に子供の場合には中止すべき。	運動を中止し、風通しのよい日陰や空調が聞いている室内等に避難する。
28～31	31～35		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	<b>厳重警戒(激しい運動は中止)</b> 熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人 <sup>(注2)</sup> は運動を軽減または中止。	激しい運動を中止し、風通しのよい日陰や空調が聞いている室内等に避難する。 運動を継続する場合であっても10分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。
25～28	28～31	中等度以上の生活活動で起こる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	<b>警戒(積極的に休憩)</b> 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩を取る。	30分おきに休憩を取り、水分・塩分の補給を行う。
21～25	24～28	強い生活活動で起こる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	<b>注意(積極的に水分補給)</b> 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	30分おきに水分・塩分の補給を行う。
21以下	24未満			<b>ほぼ安全(適宜水分補給)</b> 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	

# 熱中症への対応

## 熱中症を疑う症状

- ★ めまい・失神
- ★ 四肢の筋や腹筋がつり、筋肉痛が起こる。
- ★ 全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等が起こる。
- ★ 足がもつれる。ふらつく。転倒する。突然座り込む。立ち上がれない。等

## 熱中症を疑う症状

- 質問をして応答をみる
- ここはどこ？
  - 名前は？
  - 今何をしています？

なし

## 意識障害の有無

- ★ 応答が鈍い。
- ★ 言動がおかしい。
- ★ 意識がこない。
- ★ ベットボトルの蓋を開けることができない。等

あり  
(疑いも含む)

涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせる。  
涼しい室内への避難

## 身体冷却

救急車到着までの間、積極的に体を冷やす。

### 効果的な冷却方法

- ① 氷水・冷水に首から下をつける。
- ② ホースで水をかけ続ける。
- ③ ぬれタオルを体にあて扇風機で冷やす。

※ 迅速に体温を下げることであれば、救命率が上がります!!



119番通報

すぐに救急車を要請し、同時に体を冷やす等の応急手当を行う。

## 症状改善の有無

改善しない

## 水分塩分を補給する

- スポーツドリンクあるいは経口補水液等を補給する。
- 熱い飲み物や食塩を含んだ飲み物や生理食塩水(0.9%)を補給する。

できる

## 水分摂取ができるか

改善しない

## 病院へ！

経過観察 (当日のスポーツ参加はしない。)

# 熱中症への対応

熱中症は暑熱環境で生じる障害の総称で、熱失神、熱けいれん、熱疲労、熱射病等の病型があります。

(1) 熱失神：血管の拡張と下肢への血液貯留のため脳血流が低下して起こるもので、めまい、涼しい場所に運び、覆かせる、脚を高くする等により通常は回復する。

(2) 熱けいれん：大量の発汗があり、水のみ補給した場合に塩分が不足して起こるもので、四肢の筋や腹筋がつり(けいれんし)、筋肉痛が見られる。

(3) 熱疲労：主に脱水によるもので、全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等の症状が起こる。高体温(40℃以上)と種々の程度の意識障害(見当識障害から昏睡まで)が特徴は回復する。

(4) 熱射病(重症)：体温調節が破綻して起こり、高体温(40℃以上)と種々の程度の意識障害(見当識障害、心臓、肺等の全身の多臓器障害を合併し、冷却処置を開始する。冷却処置が重要)が背景にあることが多く、血液凝固障害(DIC)、脳、肝臓、腎臓、心臓、肺等の全身の多臓器障害を合併し、冷却処置を開始する。

熱射病は死の危険が迫った緊急疾患であり、救急車を要請し、速やかに現場での冷却処置が重要

**熱中症を疑う症状**

- ★ めまい・失神
- ★ 四肢の筋や腹筋がつり、筋肉痛が起こる。
- ★ 全身倦怠感、脱力感、めまい、吐き気、嘔吐、頭痛等が起こる。
- ★ 足がもつれる。ふらつく。転倒する。突然睡り込む。立ち上がれない。等

**熱中症を疑う症状**

救急処置は病型によって判断するより、重症度に応じて対応しましょう。

暑い時期の運動中に熱中症が疑われるような症状が見られた場合、まず、最重症の熱射病かどうかを判断する必要がある(直腸温40℃以上)と意識障害です。

意識障害は初期には軽いこともあり、応答が鈍い、言動がおかしい等、少しでも意識障害がある場合には熱射病を疑って処置をしましょう。救急車を要請し、涼しいところに運び、速やかに身体冷却を行います。

**熱中症を疑う症状**

暑い場所に行き、衣服をゆるめて覆かせる。

新しい風内への覆置

質問をして応答をみる

- ここはどこ？
- 名前は何？
- 今何をしています？

★ 応答が鈍い、言動がおかしい、意識が不明、ハートレボルの蓋を閉めることのできない。等

119番通報

すぐに救急車を要請し、同時に体を冷やす等の処置を当てる。

**水分摂取が出来るか**

水分補給を継続する

- スポーツドリンクあるいは経口補水液等を継続する。
- 熱けいれんの場合は食塩を含んだ飲み物や生理食塩水(0.9%)を補給する。

症状改善の有無

経過観察(当日のスポーツ参加はしばらく控え)

現場での処置によって症状が改善した場合でも、当日のスポーツ参加は中止し、少なくとも翌日までは経過観察が必要です。

**身体冷却**

救急車到着までの間、積極的な冷却方法

- ① 氷・冷水に首から下をつける。
- ② ホースで水をかけ続ける。
- ③ ぬれタオルを体にあて扇風機で冷やす。

※迅速に体温を下げることであれば、救命率が上がります!!

このような処置をしても症状が改善しない場合、最初から吐き気、嘔吐等で水分が補給できない場合には、医療機関へ搬送し、点滴等の治療が必要となります。

**現場での冷却処置として最も効果的なのは、首から下全体を氷水・冷水に浸けることです。しかし、現場ではこのような対応は難しいことが多く、水道水を体(首から下全体)にかけ続ける方法が推奨されます。濡れタオルを当てて扇風機等であおく、首、腋下、鼠径部等の太い血管のある部分に氷やアイスバックスを当てる等を組み合わせた方法もあります。**

心停止

頭頸部外傷

熱中症

急慢性運動障害

歯・口の外傷

眼の外傷